

「あつ、えつと続きですよね。それで、人間との共存が難しいと考えたわたしたちは、星を丸ごと化かすような幻術をかけました。」
 「幻術？」
 「そうです。六匹の大妖怪が集まり、人間の記憶から我々妖怪、妖魔の存在を消し去る大幻術をかけ、それから我々は人に紛れて共に生活をしようになつたらしいです。」
 「はー。それはまた、何とか。」
 「その後もしばらくは大変だったと大お婆様は言っていました。まあ、そうですね。わたしみたいな奴を受け入れられないですよね。」
 崩した太ももの上に溜息をつく美禄を見て、番才は即席でも言葉をかけてあげることができなかつた。
 降りしきる雨の中、番才と美禄はベランダの窓を開け廊下に腰掛けていた。昨日の晩から降り始めた雨は一晩経つても勢いが衰えることはなく、宿全体の色味を濃くさせていた。美禄とのカウンターでのやり取りから一週間

「	は	い	。	わ	た	し	あ	ん	ま	り	陽	の	光	の	下	に	出	た	こ
の	で	す	ね	。」															
か	ら	。	だ	け	ど	、	や	っ	ぱ	り	こ	れ	は	こ	れ	で	良	い	も
「	雨	は	降	ら	な	い	と	勝	手	に	思	い	込	ん	で	い	ま	し	た
「	ど	う	し	て	で	す	か	？	」										
で	す	が	、	な	ん	か	新	鮮	な	気	が	し	ま	す	。」				
	「	そ	う	で	す	ね	。	こ	こ	に	来	て	か	ら	雨	は	初	め	て
め	る	優	し	い	音	を	拾	っ	た	。									
場	の	雰	囲	気	を	こ	れ	以	上	暗	く	し	な	い	よ	う	に	と	努
て	弾	け	る	無	数	の	破	裂	音	の	中	か	ら	、	弱	々	し	く	も
を	痛	め	て	い	た	番	才	は	、	注	ぐ	水	滴	が	物	に	当	た	っ
さ	れ	そ	う	な	声	で	美	禄	が	呟	く	。	美	禄	の	心	情	に	胸
足	を	伸	ば	し	空	を	見	上	げ	な	が	ら	、	雨	音	に	か	き	消
	「	止	み	そ	う	に	な	い	で	す	ね	。」							
ろ	う	と	し	て	い	た	と	こ	ろ	で	偶	然	に	鉢	合	わ	せ	た	。
た	い	だ	が	、	雫	が	ま	だ	寝	て	い	た	か	ら	と	自	室	へ	戻
っ	た	美	禄	は	、	今	朝	も	雫	の	部	屋	に	や	っ	て	来	た	み
っ	た	雫	と	も	今	で	は	部	屋	の	行	き	来	を	す	る	仲	に	な
う	に	な	っ	た	。	初	め	は	怯	え	て	話	ど	こ	ろ	で	は	な	か
が	経	ち	、	そ	れ	か	ら	顔	を	合	わ	せ	れ	ば	話	を	す	る	よ

湧	無	の	自	と	や	女	や	あ	戦	な	傷		今	和	も	い	ぬ	胸	と
き	い	抱	分	戦	苦	将	な	の	っ	も	を		は	ら	、	い	よ	に	が
出	°	え	の	い	し	の	の	子	て	の	負		少	い	、	し	う	に	な
る	し	る	こ	立	み	言	さ	た	い	の	っ		し	で	、	ば	に	走	い
思	か	閨	と	ち	は	葉	°	ち	る	さ	て		だ	い	、	る	、	る	い
考	し	中	と	向	共	が	け	が	っ	°	い		け	°	、	、	、	締	の
を	、	で	し	か	感	番	ど	引	て	。	る		微	。	美	想	番	め	で
破	閨	、	考	か	す	才	ね	か	こ	本	者		笑	。	禄	像	付	、	、
裂	前	自	え	お	る	の	、	れ	と	人	た		ん	。	の	す	け	、	、
音	で	分	る	う	こ	中	傷	合	は	に	ち		で	。	こ	る	る	よ	、
が	な	に	と	と	は	で	跡	う	は	し	は		い	。	れ	。	、	う	、
心	ら	で	が	し	で	き	は	の	分	か	ね		る	。	ま	と	、	な	、
地	何	可	で	て	な	い	違	も	か	わ	、		よ	。	と	比	、	鋭	、
良	か	可	可	理	が	が	っ	不	か	ら	誰		う	。	べ	と	い	、	、
く	が	可	理	解	で	、	も	思	わ	な	も		に	。	と	自	、	、	、
包	可	理	解	し	、	そ	、	議	か	い	、		見	。	然	、	、	、	、
み	可	理	解	、	、	れ	、	な	合	厄	、		え	。	と	、	、	、	、
込	可	理	解	、	、	、	、	こ	え	介	、		た	。	、	、	、	、	、
ん	可	理	解	、	、	、	、	と	る	、				。	、	、	、	、	、
だ	可	理	解	、	、	、	、	じ	も	、				。	、	、	、	、	、

つ	と	じ	美		に	を	そ	す	「	時	番		く	縫	う	と	と	に		会
た	顔	よう	禄	「	挨	手	れ	」	あ	に	才		と	う	を	と	染		話	
か	を	に	は	お	拶	櫛	ほ		っ	お	の		雫	な	そ	ま		は		
と	上	丁	立	、	を	で	ど		、	お	そ		が	不	う	っ		一		
番	げ	寧	ち	お	し	整	乱		は	、	の		部	思	言	た		度		
才	た	に	上	は	た	え	れ		、	、	声		屋	議	う	木		そ		
は	あ	に	が	は	。	な	て		美	、	に		か	な	の	々		こ		
微	を	に	り	は		が	い		禄	、	気		ら	癒	だ	を		で		
笑	見	に	着	は		ら	る		は	、	付		出	し	な	を		途		
ま	て	返	物	、		、	よ		、	い			て	に	と	を		切		
し	、	し	の	今		、	う		、	っ			来	浸	、	今		れ		
い	や	た	裾	ま		手	に		、	て			て	っ	、	今		、		
気	は	。	を	あ		を	は		、	い			い	て	、	ま		番		
持	り	「	直	は		前	見		、	、			、	、	で		才			
ち	視	え	し	、		に	え		、	、			、	、	忘		は			
に	線	つ	な	、		組	な		、	、			、	、	れ		雨			
な	は	！	が	、		み	い		、	、			、	、	、		で			
っ	床	？	ら	、		丁	髪		、	、			、	、	、		深			
た	に	」	、	同		寧	の		、	、			、	、	、		緑			
。	あ		同				毛		、	、			、	、	、					

それ	「	た	が	場	雫	な	手	「	す	優	し	う	慌	で	大	「	抜	ら
れ	・	。	出	に	は	く	に	あ	、	し	て	に	て	ず	丈	い	け	ぬ
ぞ	・		来	立	更	て	、	あ	す	さ	し	手	た	夫	い	だ	詮	
れ	・		上	ち	に	。	そ	あ	す	に	ま	を	は	で	夫	と	索	
が	で		が	尽	踏	ご	。	あ	い	っ	っ	踏	は	。	で	い	や	
何	は		り	く	み	っ	ご	。	い	っ	。	み	足		。	い	勘	
度	は		、	し	出	、	め	ん	い	、	し	出	を			い	繰	
も	、		雨	俯	し	両	な	さ	て	心	、	し	し			え	り	
顔			の	い	手	手	い	。	を	を	心	な	て			つ	を	
を			音	て	を	伸	。	し	。	引	を	い	い			あ	し	
見			が	い	ば	す	全	。	。	止	。	不	。			あ	し	
合			異	て	。	。	員	。	。	め	。	平				の	訳	
い			様	い	。	。	が	。	。	る	。	気				。	ない	
、			に	う			の			。		す				。	。	
表			大	う			。					。						
情			き	う														
と			く	奇														
空			聞	妙														
気			こ	な														
感			え	状														
			。	況														

驚	続	ね	「	を	い	音	地	ひ	か	「	れ	「	将	カ	す	「	後	宿	た
き	く	え	今	感	な	と	面	さ	？	そ	た	そ	の	タ	が	い	ろ	の	い
、	女	。	晩	じ	の	は	を	し	」	れ	だ	う	隣	ン	、	え	を	入	じ
雨	将	」	、	た	か	似	抉	か		だけ	け	「	に	と	、	、	振	口	ゃ
が	の		あ	。	、	て	り	ら		で	嬉	ま	立	札	ち	、	り	の	な
一	口		ん		番	い	池	流		し	い	あ	っ	を	よ	返	ひ	い	い
段	か		た		才	つ	が	れ		か	か	い	と	板	と	る	さ	か	か
と	ら		に		は	か	で	落		ら	ら	。	。	に	も	こ	し	ら	。
強	紡		お		女	ぬ	き	ち		て	い	ま		掛	な	と	外	。	
く	ぎ		願		将	雨	て	て		く	い	あ		け	が	な	を		
降	出		い		の	が	る	る		る	い	い		な	ら	見			
り	さ		た		雰	奏	の	の		滝	よ	よ		が	番	て			
始	れ		い		困	で	よ	よ		う	う	。		才	才	い			
め	る		こ		気	る	う	う		な	な	。		は	は	た			
た	言		と		に	別	な	な		雨	雨	。		答	来	女			
。	葉		が		少	の	雨	雨		水	水	。		え	て	将			
	に		あ		し	音	水	水		が	が			、	。	が			
	番		っ		違	の	が	が						女					
	才		っ		和	せ													
	は		て		感														

れ、	め	ら	つ	な	強		こ	美	「	よ	「	た	膝	「	手	「	雨	今	
、	ない	ない	て	い	迫	“	こ	禄	・	?	・	°	を	・	に	・	に	ま	
気	悪	問	い	思	観	何	に	は	・				抱	・	来	そ	掻	で	
付	夢	い	考	考	念	か	来	ベ	・				え	・	た	き	消	番	
け	を	を	す	す	が	を	た	ラ	・				て	・	。	さ	れ	才	
ば	見	問	ら	ら	四	し	当	ン	・				座	・		れ	が	座	
夜	続	わ	も	ら	六	な	初	ダ	・				る	・		ま	座	つ	
に	け	れ	、	に	時	け	の	の	・				零	・		い	つ	て	
な	て	て	そ	に	中	い	こ	木	・				の	・		い	た	た	
り	い	い	れ	に	付	け	と	目	・				足	・		よ	場	所	
、	る	る	い	に	き	な	を	を	・				を	・		謝	所	に	
そ	よ	よ	け	に	纏	い	思	目	・				、	・		ら	腰	掛	
し	う	う	な	に	い	”	い	で	・				美	・		な	掛	け	
て	な	な	、	に	日	と	出	な	・				禄	・		く	。 わ	た	
朝	感	感	決	に	々	い	し	ぞ	・				は	・		小	た	し	
が	覚	覚	し	か	の	う	て	り	・				軽	・		突	が	勝	
来	に	に	て	な	何	強	い	な	・				く	・		い	が	勝	
る	苛	苛	わ	く	で	い	。	が	・				小	・		。	は	勝	
°	ま	ま	か	な	も	強	。	ら	・				突	・			は	勝	
									・					い					
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										
									・										

